

戦争はこわいもの

吉堅小学校 四年一組 比嘉美月

戦争のはげしかったところは、食べ物があま
りなくて、配給されるいもや豆、かぼちゃな
どしがあります。たぶん、いもや豆
がぼちゃなどもなかったかかもしれません。今
のように、おかしやジュースもなくて、お米
不足だったから、今は食べ物であって平和だ
なと感じます。戦争中は、ひもじい思いをし
ている人が多かったと思います。

また、壕を追い出された人もいるでしょう。
赤ちゃんが暗いにおどろいて大声で泣きだ
すと、
誰だ、赤ちゃんを泣かしているのは！アメ
リカーに見つかって殺されるぞ！
って、壕を追いだされてしまった人もいると
思います。しかし、追いだしたかわの気持ち
も分かります。アメリカに見つかって、全
員が殺されてしまうから、まきこまれたくな
いという気持ちが伝わってきます。でも、追

いだされた人の気持ちも分かります。ぎゃくに赤ちゃんがいるから壕ごうに行くんです。ねらわれたらあぶないから行くんです。なのに、追い出されたら、ぎゃくにねらわれると私は思います。そのころの大人は、本当は壕に入らせてあげたいんだと思います。なぜなら、子どもが殺されるのを、見たくありませんが、その時代の大人や子どもは、とてもよごれていたのでしょう。今はみんな、心の色は、キレイなうすピンク色です。でも、みんなが心の色がうすピンクだというわけでもありません。いじめをしたり、人を殺したりした悪い人は、心の色は茶色です。黒の人もあります。友達に、
 「おい、〇〇いじめようよ。」
 とさそわれたりしても、私は、「いやだよ。心の色がきたなくなるからね。」
 とことわりたいと思います。子どもの時に、悪いことをしていたら、大人になってから、そんなをします。

「ああ。子どもの時に悪いことをしなければ、
こうしてけいさつにつかまらなくてすんだ
のに。」

と、子どもの時から悪いことをしていると、
大人になってから心のよごれは落とすにくく
なっていています。もう、くせになって、悪いこ
とをするのが楽しくなっていて、後からそんなをす
るのです。そんなをするかしないかは、子ども
の時に考えておくのです。私は、ずっととうす
ピンク色の心をもっておこうと思います。

私はこれから、けんかをしないように、友
達と仲よくします。なぜなら、小さなけんか
から、大きなけんかになるからです。もし、
けんかをしている人を見かけたら、
「けんかをしたら、戦争が始まるよ。だから
やめてよ！」
と注意します。戦争は、こわいと分かってい
るのに、死にたくないのにしてしまっから、
いつ起こるか分かりません。それは、心のゆ
るみから始まるものだど分かりました。